

目次

| | | | |
|------------|---------------------------------|-------|----|
| 自由＊空間 | 「地球一周の船旅(3)」「浜(孝子越)街道を歩いてみる(3)」 | ----- | P2 |
| ご存知ですか | 「映画監督リドリー・スコットとその魅力」 | ----- | P2 |
| 私のおすすめ | 『天地明察』『永遠の0』 | ----- | P3 |
| | 『おばあちゃんのすてきなおくりもの』 | ----- | P3 |
| 図書館からのお知らせ | ----- | ----- | P4 |

やぐら祭りにかける夢

仲谷 栄一

毎年、岸和田だんじり祭りだけが大阪新見の見出しを飾り、阪南市のやぐら祭りは片隅にも載らない。何とも口惜しい、淋しい。一輪の地車というのは、全国的にも稀である。それが十月の第二日曜日の宮入りのとき、一グループ三〜四台(四台以上の時は三台以外は交代で待機)が、先ず馬場先(参道前の広場)で走って周回するあの熱気(他市町のやぐらはめったに走らない)。そして最後に、一台ずつ拝殿前の七段の石段を観客の目前で駆け上がる。石段をにらんで観客も曳き手も息を詰めて待つ緊張のひととき、出発の合図の団扇が下ろされるや否や一気に階段を駆け上がる。どよめきと歓声と拍手の嵐。太鼓の音が一段と響き渡る。年に一度の祭りの最大のハイライトの一瞬である。岸和田だんじりの一番の難所「小門」前でのやり回しに勝るとも劣らぬ大迫力。

広い日本でもこのように「見る人と見られる人が一体となった祭り」はそう多くはないだろう。世界に誇るに足るこの祭りを大阪の片田舎に眠らせておくのは、あまりにも勿体ない。「阪南市のやぐら祭りを、そして阪南市を全国に売出す」この錦の御旗を掲げて、微力ながら私もその実現に全力を尽くしたい。以下、具体策を掲げる。

- 箱作東と西二台のやぐらも、加茂・菅原西社と波太神社の神が縁を結ぶことにより、二日にわたり二社に宮入りして頂く。それにより全やぐらが波太神社で一堂に会することになり、一段と盛大になる。
- 山中溪駅舎に総ガラス張りの古やぐら展示場を造る。
- 阪南市の祭礼日を、近隣市町のそれと約二週間ずらし、見物客及び他所からの曳き手がより波太神社の宮入に参加しやすくする。

曳き手を倍増させることにより一段と迫力ある曳行を披露でき、それがまた見物客を増大させるという相乗効果が期待できる。

- 「やぐら保存会」の名称を前向きで夢のある名称に変更する。 名称例
「やぐら栄光(曳行)会」
「やぐら維新の会」など

以上の事にもまして大切なことは、私達一人一人が、市内外の親戚・知人・友人たちに口コミでやぐら祭りの素晴らしさを喧伝し、先ず一人を波太神社の祭礼にお連れすることではないでしょうか? より素晴らしいアイデアがあれば教えてください。

(寄稿者連絡先 阪南市山中溪
一三三〇七二四七二〇七九)



自由空間



西鳥取に入ると道幅も広げられ、家も建て替えられて往時を思ふ町並はありませんが、僅かに曲りくねった道が街道の形を残しており、お菊で知られた法福寺やこの付近ではひととき大きい、西鳥取観音堂があります。南海線を越え、貝掛団地前で国道を横切り貝

掛に入る。小高い丘を登って、集落のほぼ真中をカーブしながら貝掛住民センター横を通る。この地点「孝子越街道」の里程標があります。道幅も狭く、町並や和泉石で積まれた石垣に昔の風情を残しています。指出森神社横で国道に合流、南海箱作

駅横から国道と分かれ、鯉が泳いでいる茶屋川を渡り、賀茂神社横を通る。この辺りの海岸は、「土佐日記」にも書かれ、「箱の浦」と呼ばれています。更に進み、また国道と合流する。この地点山側には、電蔵寺(台湾の真仏宗が建立)が見えます。 寺田 雄揮

船の中では毎日A4四ページの「船内新聞」が発行され、それを見て行動計画を立てる。朝六時〜三〇分の「太極拳スクール」、六時三〇分〜四五分「ラジオ体操」。朝「朝食」七時二〇分〜五〇分「朝の健康サルサ」、八時〜三〇分「ストレッチ&スクワット」で一日が始まる。ラジオ体操の担当者が若い女性で第二体操を知らないの

毎日、乗船客八五〇人の内三〇〇人位の人が参加してくれました。又、ベトナム・ダナン(七月二六日)〜スリランカ・コロombo(八月二日)まで、福島子どもプロジェクト エクト南相馬ユースの震災で放射能漏れのため、屋外で運動が出来ない中学生四九人が招待され乗船し、八月一日に送別会が開催されるということ聞き、事務局に阪南混成合唱団で歌った阪神淡路大震災の後に作詞作曲された「しあわせ運べるように」の福島バージョンの譜面を持って来ていたので、皆で歌ってはどうかと提案。船内でも「オセアニック混成合唱団」団長にされてしまう。団員募集すると約百人が参加

《ご存知ですか》 映画監督 リドリー・スコットとその魅力

本作品は人間の中に潜む人間性を主題とした物語である。 高橋 勇

フィリップ・K・ディックの小説が本棚に残っている。私にとって捨てられない一冊で読み返したい、自分が残そうと選んだ本である。原作邦題『アンドロイドは電気羊の夢を見るか?』を映画化したのがリドリー・スコット監督の「ブレードランナー」である。人間の中に潜む人間性とは何か? 機械と人間の間に生まれてくるのは対立か? アンドロイドとは人間に疎外された存在であるのか?



角川書店

Fウブ

講談社文庫

FB/F ヒヤ

江戸時代初期、大昔に伝来した曆が使用されていましたが、日にちのずれが著しく、日食や月食の日時を当てることはできないなど、色々と差しさわりが生じていました、西洋天文学の知識に日本の地理条件を取り入れ、正確な曆を作り上げたのが、**洪川春海**（本名 **安井算哲**）です。

そのころ江戸では、神社に奉納する絵馬に算術の問題を掲げ、その答を一般に求め、正解すると「明察」と書き入れる算額奉納が流行っていました。彼は若くして将軍家お抱えの暮打ち衆でしたが、この算額奉納に熱中していて、ひまを見つけては神社に通っていました。その算術に対する才覚を、幕府の執政者達に認められ、大役を任されたのです。好きでやってきたことで、まるで関係がないように思えることが天の動きを的確に捉えることに役立ち、「天地明察」となったのです。

このことは、初めて日本地図を編纂した伊能忠敬にも言え、地球の径を知るため北極星を測量して日本各地を歩き、あの偉業を達成しました。これらの大任を任せられた封建的であると思われる執政者達の柔軟な考え方も意外でしたし、何より学術に専心する人達の開明で熱心な志に共感を感じました。 **SAKAI**

秘のちのちめ



五年前の秋、母の法事後、ふと思いついて鹿児島を知覧特攻平和記念館を訪ねた。桜並木の奥の静かな佇まいの会館に入っつてすぐ右手に、千三十六柱の隊員の遺影と遺書等が展示されていた。それを一つ一つ眺めながら私はふと、遺書等の展示台の前で、次々と遺書に目を通してながら流れる涙を拭いもせずにつむ若い女性に目を奪われた。「永遠の0」は、四年連続司法試験におちて、人生の目標を失いかけた二十六歳の青年とその

姉が、「愛する妻と子の為に必ず生きて帰る」と誓って出征した祖父が何故、特攻隊員として南の島に散って逝ったか、生き残りの隊員を訪ねてひも解いて行く物語である。死が日常の戦場にあって生き残るために戦い続ける祖父、宮部久蔵は、同僚に臆病者とさげすまれながらも、特攻志願兵の訓練と特攻に向かう彼らの援護飛行だけを繰り返していたが、終戦直前に自ら志願して南の海へ死出の旅に飛び立つのであ

る。「特攻隊員の中には、隊員に選ばれて取り乱すような男は一人もいなかった。もちろん、出撃の際に泣きわめくような男もいなかった。彼らの多くは、出撃の前に笑顔さえ浮かべる者もいた。やせ我慢などではない。すでに心が澄み切っていたのだ。」と文中に語られた若者たちの心が、平和会館の遺書の前であふれる涙を拭いもせず泣いていた、女の人の心を打ったのかもしれない。 **竹山 保男**

《児童書》 『 おばあちゃんのすてきなおくりもの 』 1990年

カーラ・スティーブズ / 著 掛川 恭子 / 訳 のら書店 K933 行

雪の野原に住む仲良しの子どもたち、ハツカネズミ・トガリネズミ・モグラは、近所で一人暮らしのハタネズミおばあちゃんが大好き。三びきは病気がちのおばあちゃんにスープを届けたり、まきを割ったり、温かい布団を作ってプレゼントしたり・・・おばあちゃんはいつも優しくて、たくさんのおはなしを聞かせてくれます。ところがある日、三びきは、体が弱っていたおばあちゃんが死

んでいることに気がきます。三びきは悲しみながらも、力を合わせておばあちゃんを葬るのです。

易しい言葉を使った短い物語ですが、年をとれば誰でも死ぬ、死ぬということはということなのか、深く考えさせられます。「年よりと若者、若者と年より。互いに与えあって生きていく。」訳者あとがきにある、スティーブズさんの言葉は、死生観の薄れた現代に生きる私たちの心に響きます。

原田 史子



本のリサイクル

はんなん
産業フェア
同日開催

図書館でのつとめを終えた本や雑誌をお譲りします。みなさまの本棚で第二の人生を。

第2回 平成26年11月2日(日) 午前9時30分～午後2時

第3回 平成27年2月7日(土) 午前9時30分～午後3時

場所 サラダホール2階 視聴覚室
持ち物 図書貸出券・ボールペン・袋
入場方法 図書貸出券をご提示ください。
冊数 本は10冊まで。
雑誌は一部を除き無制限。
(雑誌は第3回のみ)

2月は雑誌が出ます。年に1度のお楽しみ。
雑誌のバックナンバーが欲しい方は、
この機会をお見逃しなく！

午後1時以降の入場について

午後1時以降は、朝すでに10冊譲り受けた方でも、再入場し、好きなだけ本を持ち帰ることができます。

図書館25周年・誕生日イベント **11月3日** は
図書館に行こう！

「家庭読書の日スタンプ」もう一つ
押しますデー

秋の工作教室

どんぐりやまつぼっくりで何ができるかな？

11月3日(月・祝) 午後1時30分～3時
場所：サラダホール2階 視聴覚室
定員：本市在住の小学生・先着30人
申し込みは、10月18日(土)から図書館で
協催：自然と本の会

おはなしかいスペシャル

11月3日(月・祝) 午前11時～11時45分
場所：おはなしのへや
内容：マジック・おおがたかみしばい・
えまきペープサート ほか
協力：南海奇術クラブ・坪田冬至子さん(ボラティ)

書庫開放デー

11月3日(月・祝)
午後2時～4時30分
場所：サラダホール3階書庫
内容：普段は立ち入ることのできない書庫を開放
します。

年に一度、書庫の本を直接選んで
借りることができる、
貴重な機会です。

